



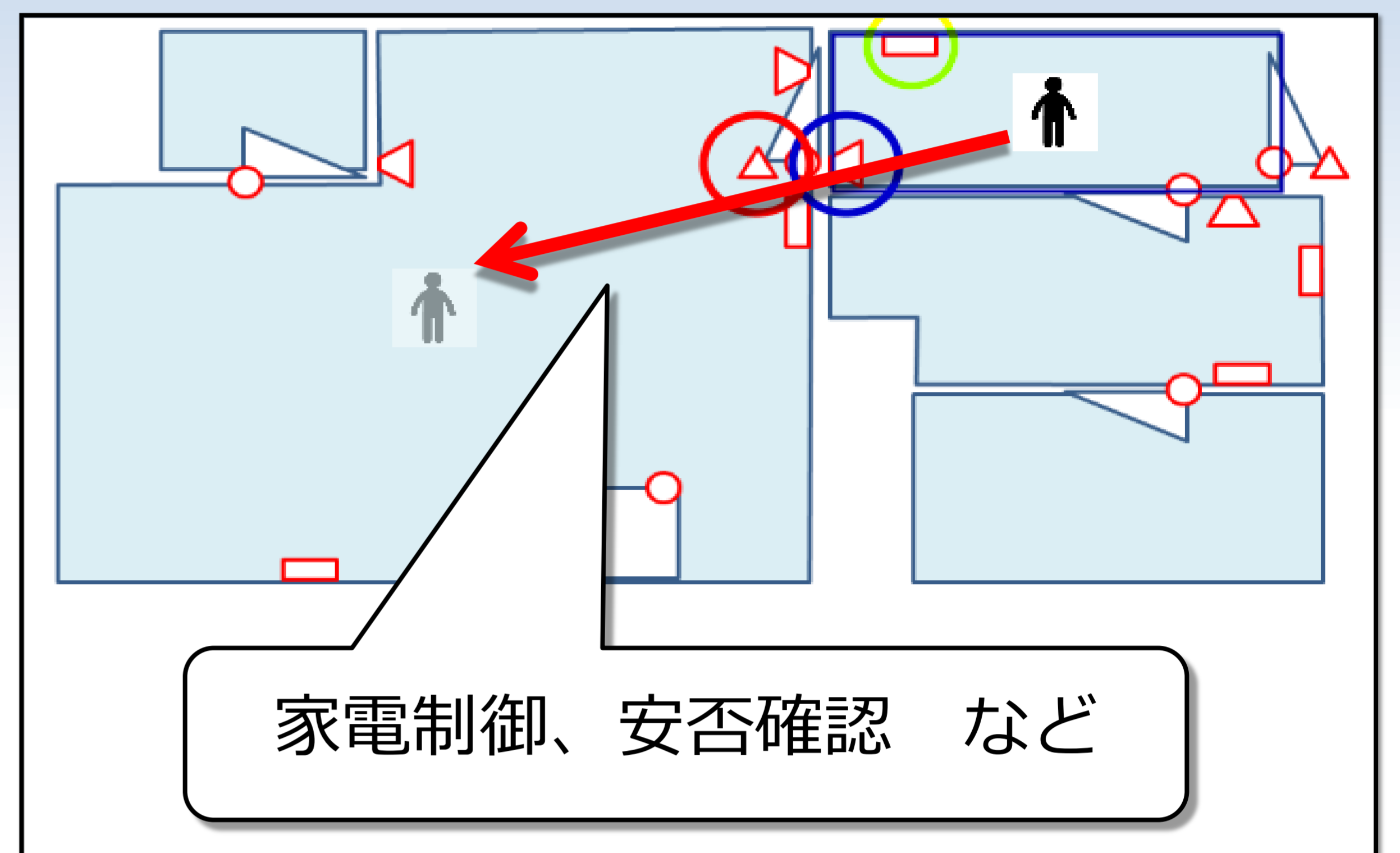
中部電力

センサを活用した暮らしの支援技術

暮らしを快適・安心にします。

背景・目的

- ICT・IoTの発展により、家庭に様々なセンサが導入され始めています。
- お客様の暮らしに合わせた支援・サービス・情報発信をするため、センサ情報の活用について研究しています。
- 消費電力とセンサ情報を組み合わせることで宅内の在・不在を判定する手法を検討し、試験により検証中です。
(共同研究：株式会社構造計画研究所)

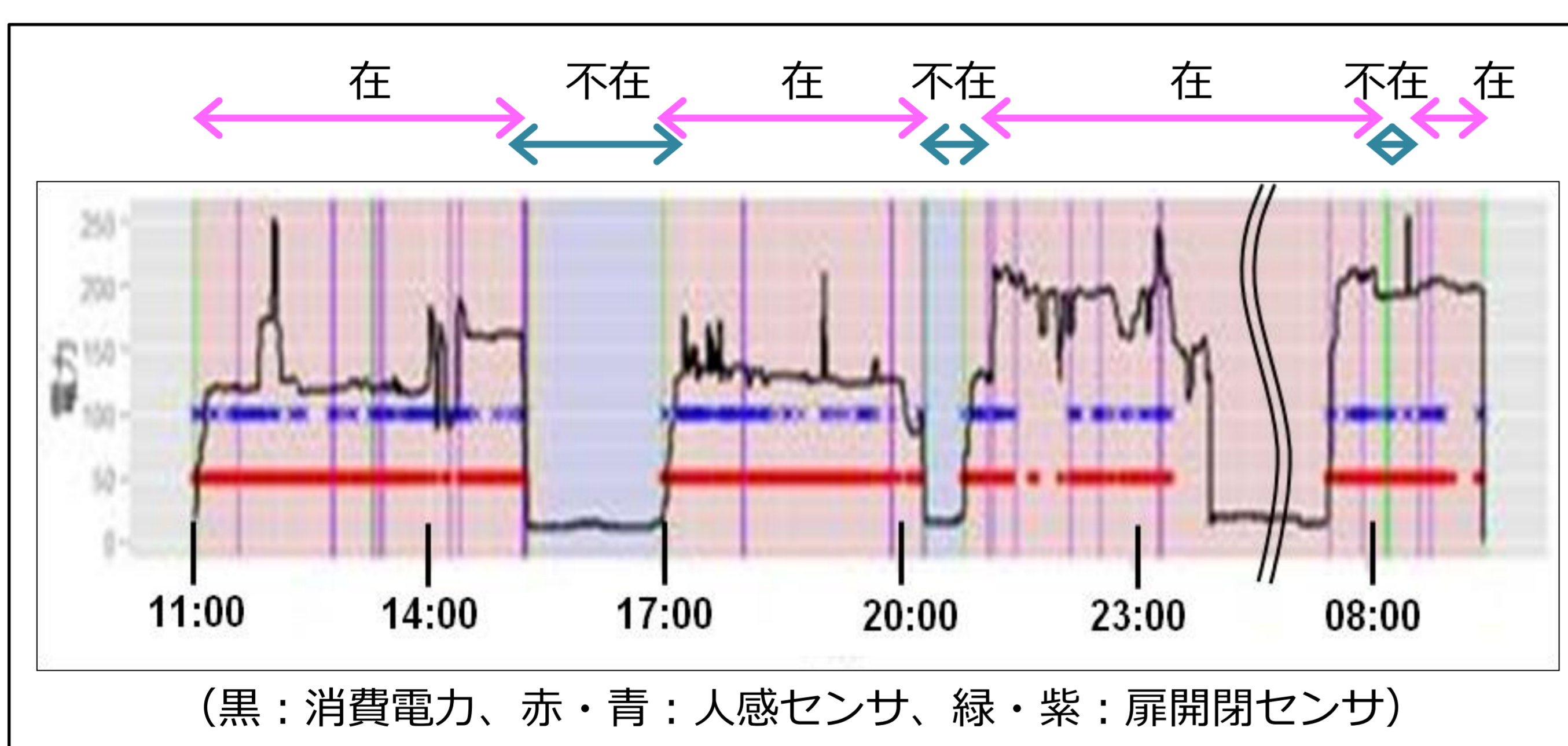


試験・結果

- 各種センサを設置した試験フィールドを構築しました。
- 冬季・単身世帯・休日を想定した生活を計測しました。(24時間×10セット)
- 消費電力とセンサ情報から、宅内の在・不在を判定しました。



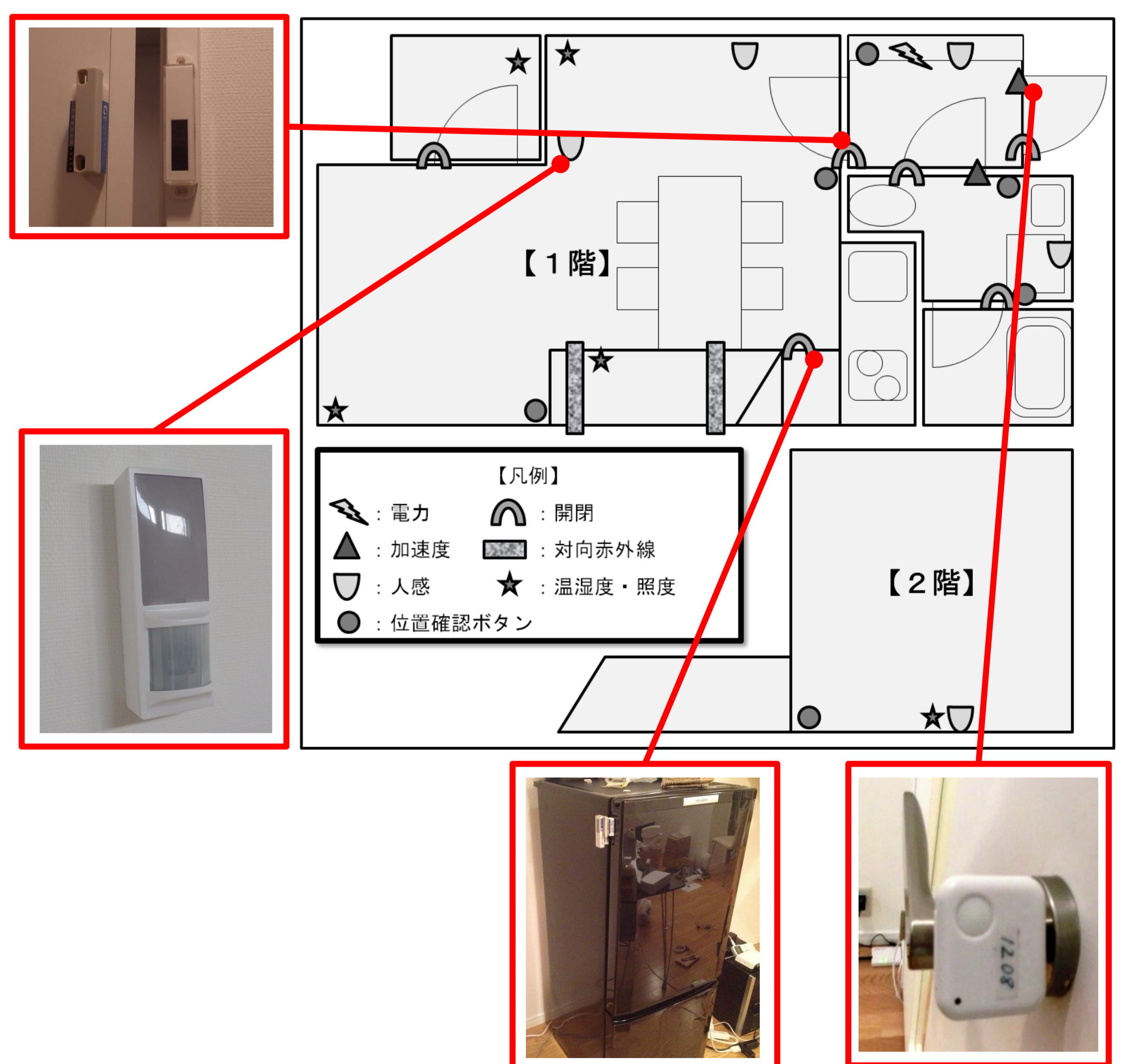
試験フィールド：構造計画研究所 知粋館（東京都）



(黒：消費電力、赤・青：人感センサ、緑・紫：扉開閉センサ)

在・不在の判定イメージ

- 判定の正答率は約90%でした。
- 春季・秋季はエアコンが動作しないため、冬(夏)季と同じ判定手法では正答率が下がることが予想されます。
- 今年度、試験の実施とともに、判定手法の改良を検討しています。



研究者のひとこと

ICT・IoTを活用した新しい技術が、家庭に導入され始めています。遠くない未来に訪れる、「意識して操作しなくても快適・安心」な暮らしにご期待下さい。